

皆さんの悩み、お聞きします

ケアラーの窓から Vol.24

“居場所”としての存在

オレンジカフェ



認知症を支援する目印「オレンジ・リング」

オレンジカフェは、認知症の病を持つ方やご家族の方、地域の方など、どなたでも気軽に参加できる場所です。さまざまな活動や何気ない会話を一緒に楽しみ、地域の繋がりを深める、そんな機会を作っています。心配事や話を聞いて欲しいなどの相談も随時受付けていますので、気軽にお越しください。

【問い合わせ・申込先】 ガーデンハウスくりやま ☎ 72-2600

01

脳と体を使って認知症予防



今年10月よりケアラーズカフェ『サンの笑顔』（いきいき交流プラザ内・中央3）を新たな会場とし、リニューアル！各界で活躍されている専門家を講師に、脳の活性化、身体づくり、栄養などさまざまな面から認知症予防に適した講座を開催しています。

02

コーヒーを味わいながら気軽にご相談も



講座後は、参加者同士で過ごす交流タイムを用意しています。楽しいおしゃべりをはじめ、困りごとや不安なことなどを気軽に相談する場にもなっています。また、コロナ禍の影響により休止していたコーヒーやスイーツの提供も再開しました。

12/20
※

今月のオレンジカフェは…

「音楽で笑顔に」
～メリークリスマス～

ピアノの音色と癒しの歌声を聞いて、冬に心温まるひとときを過ごしましょう♪

■時間 13:30～14:30
■場所 いきいき交流プラザ
※事前予約制です。

昨年も皆さんに歌声を届けましたが、参加者にとって大切な居場所であり、世間話や困りごとでも話しながら、心落ちつく場所だと感じました。私自身、長年続けている「音楽」をお届けする機会をいただき、大変光栄です。今回はクリスマスの楽曲を中心に、皆さんの心が豊かになるような音楽を身近に感じられる機会になればと思います。

今月の講師にインタビュー！



地域おこし協力隊 西村 さやか 隊員

音楽で心豊かな時間

栗山学び隊 No.43

地域で輝く介護福祉学校と栗山高校に通う皆さんの様子をお届けします

憧れていた「夢」を目指して栗山町に

中村 良子 さん・小田 芳子 さん

(北海道介護福祉学校2年)

公共職業訓練生として在籍する二人。コロナ禍をきっかけに以前から夢見ていた「人の役に立つ仕事」を再び目指したいと決心し、昨年入学しました。小田さんは「数十年前の学生生活。日々勉強です」と話しながら「年齢関係なく、学生・先生が接してくれて、とても支えになっていきます。感謝でいっぱいです」と話します。二人は現在、まちの課題を福祉の視点で考



元職場の同僚でもある中村さん(左)と小田さん(右)

える「地域活動研究・ヘルスケアグループ」として活動中。高齢者の困りごとを解決する体操やレシビの考案、最近では中央南まちづくり協議会、継立町内連合会との交流を行うなど、地域に根差した活動を行っています。中村さんは「皆さんの様子から、町の温かさを感じられて楽しいです。私たちにできることで、学んだこの地に恩返しがしたいです」と話していました。



中央まちづくり協議会との交流(左)継立町内連合会との交流(右)地域の皆さんの温かさを感じています

今できること、これからも見据えて

飛渡 翔 さん(栗山高校2年)・丸岩 希莉斗 さん(同1年)



堂々と取材に応じた飛渡さん(左)と丸岩さん(右)

バスケットボール(以下、バスケ)部の主将飛渡さんと副主将丸岩さん。部員はわずか5人で大会出場はギリギリの人数です。唯一の2年生である飛渡さんは、高校からバスケを始めており、「経験者の後輩ばかりで焦りもありますが、まずは自分にできることを頑張っています」と語っています。一方、1年生の丸岩さんは中学時代に南空知選抜にも選ばれた実力者。「少

年頃の頃から少人数の活動に慣れていきます。まずはチームでの勝利を味わい、技術的・精神的に成長したい」と抱負を語っています。現在、バスケ部と男子野球部が互いの部活動を行き来し、助っ人の力も借りて活動中のこと。飛渡さんは「次の大会は野球部の力を借りて出場します。目標の初勝利、また、新入生を迎える来年も見据えて頑張りたい」と意気込んでいます。